

社会福祉法人 ほかにわ共和国

知的障害者入所更生施設 **八雲寮**

社会福祉士

磯田正也



地域の人々の手で、どんどんきれいになっていく島原半島

平成19年11月26日に、島原半島(島原市・雲仙市・南島原市)の「アダプト・愛護団体」が集まって「島原半島愛護推進協議会」が結成されました。現在、島原半島には69の「アダプト・愛護団体」があり、その構成員は7768人。みなさんの熱心な活動が高い評価を受けています。その中から今回は、国道251号加津佐町権田バス停から津波見までの約1.5kmの道路のアダプト団体である「八雲寮」(知的障害者入所更生施設)の活動現場取材。まだ肌寒さが残る海岸で、元気に美化活動に取り組む姿が印象的でした。



「八雲寮では、以前から口加高校と合同で野田浜海水浴場の清掃や海岸沿いの国道のゴミ拾いを行うなど、



『地域共生』の理念の元、地域貢献活動に積極的に取り組んでいました。そんな時に県のアダプト団体募集!の告知を見たものですから、すぐに登録させていただきました。毎回午後1時から3時半まで2時間半ほどの清掃活動を総勢120

名の入所者で行っています。いくつかの班に分かれて、草を刈ったり空き缶やゴミを拾ったり、障害の重い方でも何かできることをと、障害の程度に合わせて無理

のない範囲で楽しみながら行うようにしています。年に6回、暑い時も寒い時もありますが、みんな通常の施設内の作業に比べて表情が生き生きしています。それと、何と言っても作業のあとのジュース(県より補助)が楽しみのようです(笑)」と語る、指導者であり社会福祉士の磯田正也さん。なかなかゴミはなくなり、頭を痛めることもあります。

「以前よりは大きなゴミが無くなりましたし、だいぶゴミを棄てる人も少なくなったような気がします。」とのこと。

なお、「島原半島愛護推進協議会」では、今後も愛護団体等が協力しあい、島原半島をきれいにしていくために、活動を活性化させていく予定です。



清掃中
通行注意